

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 165人

② 数学 166人

5 留意事項

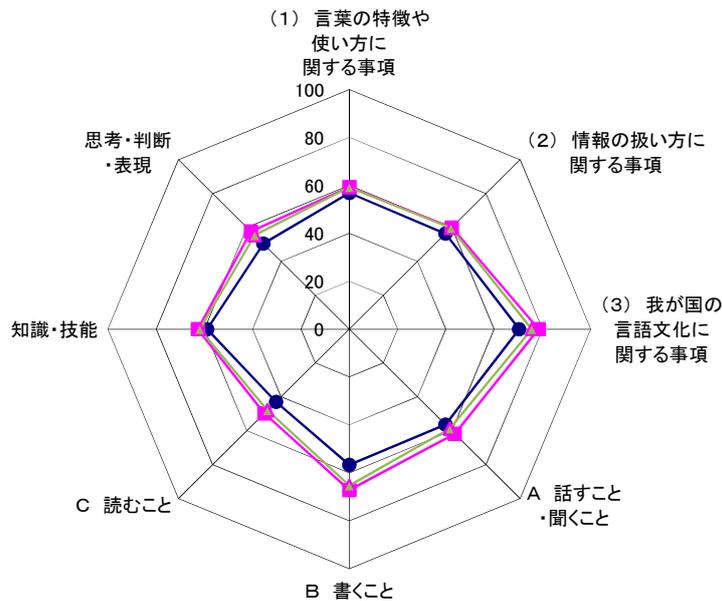
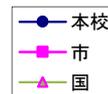
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	56.8	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	56.4	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	70.3	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	56.4	61.8	58.8
	B 書くこと	56.7	67.2	65.3
	C 読むこと	42.9	49.7	47.9
観点	知識・技能	58.9	62.7	62.0
	思考・判断・表現	50.4	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

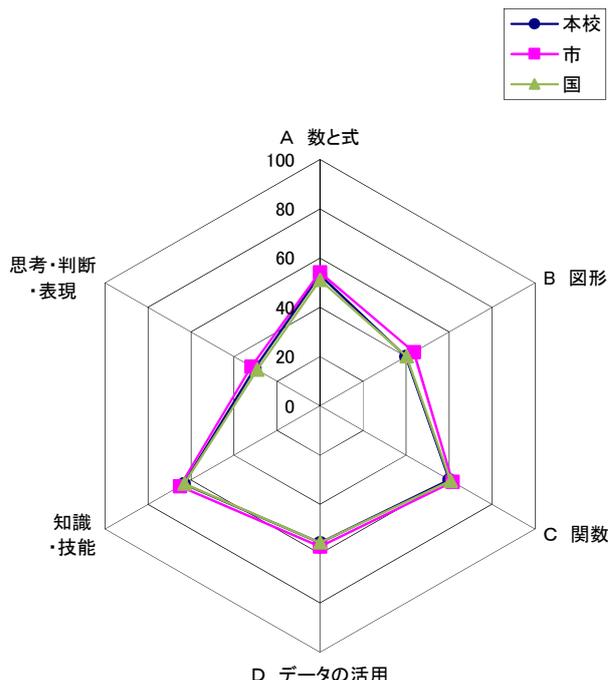
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<p>正答率は市平均を2.5ポイント、全国平均を2.4ポイント下回った。</p> <p>○短歌の表現技法に関する問題では、正答率が県平均及び全国平均を上回った。</p> <p>●文脈に即して漢字を正しく書く問題では、正答率が県平均及び全国平均を下回り、無回答率も高かった。</p>	<p>・言語の使い方など、生活に直結する部分なので、重点的・継続的な指導を行っていく。</p> <p>・文章の中で漢字や語句を正しく使えるように、家庭学習→漢字テスト→復習のサイクルで漢字の定着を図り、読解の指導の中で語句の意味などについて丁寧に扱い、語彙力の向上をめざす。</p>
(2) 情報の扱いに関する事項	<p>正答率は市平均を3.6ポイント、全国平均を3.2ポイント下回った。</p> <p>○●話し合いにおける発言から情報を読み解こうとする意欲はあるが、情報の内容によって理解に差が生じている。</p>	<p>・授業において、タブレット端末を使用した情報の収集を行っているが、情報の精選についての指導をさらに充実させていく。</p> <p>・「意見と根拠」など、情報どうしの関係を見極める力を伸ばすととともに、自らの言語生活に生かそうとする態度を養っていく。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>正答率は市平均を8.1ポイント、全国平均を5.3ポイント下回った。</p> <p>○行書の特徴について考え、解答しようとする意欲は見られた。</p>	<p>・書写の時間に行書で字を書く機会を多く設けるなど、行書にふれる機会を増やしていく。また、書き方といった技術面だけでなく、行書の成り立ちや特徴についても丁寧に説明していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>正答率は市平均を5.4ポイント、全国平均を2.4ポイント下回った。</p> <p>○資料を用いて自分の考えをわかりやすく相手に伝える問題については、県平均・全国平均との差は小さい。</p> <p>●話し合いの展開を捉えながら、自分の考えをまとめる問題では、無回答率が高い。</p>	<p>・話し合い活動や発表、プレゼンテーションなどを授業に取り入れ、自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えることができるよう、話す力の育成に努める。</p> <p>・聞き取りテストの頻度を増やし、論理の展開をつかむ指導の充実を図る。</p>
B 書くこと	<p>正答率は市平均を10.5ポイント、全国平均を8.6ポイント下回った。</p> <p>○情報の取捨選択に関する問題においては、無回答率は0.0%であった。</p> <p>●表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する問題では、無回答率が16.4%と非常に高い。</p>	<p>・授業において、自分の考えを書かせる活動を積極的に行い、成果が徐々に表れているため、今後も継続して指導していく。</p> <p>・書くことに抵抗感がある生徒に対しては、キーワードを組み合わせた、短文を重ねたりすることで、少しずつ長い分が書けるよう指導していく。</p>
C 読むこと	<p>正答率は市平均を6.8ポイント、全国平均を5.0ポイント下回った。</p> <p>○無回答率は低く、読むことに対する抵抗感が薄れ、丁寧に読み取ろうとする姿勢がうかがえる。</p> <p>●目的に応じて情報を要約する問題の正答率が低かった。</p>	<p>・長い文章に抵抗感をもつ生徒や、文章を読んで知識を蓄積したり、自己の経験を結びつけたりすることが苦手な生徒が多いのが現状である。自分の考えを深めたり広めたりするために、さまざまな種類の文章に触れさせていく。論説文に関しては、関連する図書や資料なども提示することで、理解を促していく。</p>

宇都宮市立若松原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	53.1	54.2	51.1
	B 図形	40.0	43.6	40.3
	C 関数	60.1	61.7	60.7
	D データの活用	55.6	57.1	55.5
観点	知識・技能	63.3	65.2	63.1
	思考・判断・表現	30.5	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○文字を利用して数式を作る問題や等式変形の問題が市平均を上回っていた。 ●問題場面から規則性を導き出す問題においては、どういう規則性があるかは理解できているが、数から文字に置き換えて考える問題や、複雑な図の問題になると正答率が下がっていた。	・基本的な計算などの問題については、問題演習をくり返し行ったことが良好な成果につながったと考えられる。今後も継続していくとともに、応用問題を多く取り入れていきたい。 ・具体的な事象から規則性を導き出すような問題を、授業等でも積極的に取り上げる。
B 図形	●回転移動についての理解や合同の証明を活用する問題に課題が見られた。	・図形に対して多角的な見方や考え方ができるよう、1年の図形の問題(3つの移動)や2年の合同の証明の問題を、積極的に扱っていく。また、証明に関しては、根拠を明確にしなが、筋道を立てて証明できるように支援をしていく。
C 関数	○1次関数のグラフの性質を問う問題の正答率は、県平均を上回っていた。 ●2つの関数のグラフから事象を読み取る問題に課題が見られた。	・日常的な事例を取り上げ、1次関数の知識を活用して考察する問題に進んで取り組ませていく。
D データの活用	○確率や四分位範囲に関する基礎的な問題は市平均を上回っていた。 ●データから最頻値を求める問題の正答率が低かった。	・最頻値に関する問題については、最頻値の定義に関する理解が不十分であったことが考えられる。今後の授業では、公式や定義そのものを十分に確認し、知識の定着を図っていく。 ・本分野に関しては、おおむね良好な結果であったといえる。今後も、問題演習などを通して、応用力の伸長を図っていききたい。また、日常生活においても活動できるよう、取り上げる題材などを工夫していきたい。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校生徒の「朝食を毎日食べていますか」の質問で肯定割合は、93.0%(全国比+1.8ポイント)とやや高い。また、「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを普段の生活にいかしていますか」の質問でも肯定割合は、78.2%(全国比+1.5ポイント)であり、健康的な生活への意識は高いといえる。今後も家庭との連携を図り、規則的な生活習慣の定着を図るよう支援していく。

○「自分にはよいところがあると思いますか」の質問で肯定割合は、86.4%(全国比+3.1ポイント)と高い。また、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問も、肯定割合は85.3%(全国比+19.0ポイント)と高い。自分のよさに気づき、将来に生かしていこうという前向きな気持ちをもつ生徒が多いことがうかがえる。生徒一人一人が将来を見据えて自己実現を図ろうとする姿勢を、教育相談や学級活動等で引き続き支援していく。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問で肯定割合は90.6%(全国比+0.5ポイント)、また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問も肯定割合は90.6%(全国比+0.5ポイント)と高く、他を思いやる心をもっている生徒が多いことがうかがえる。今後も道徳の授業やボランティア活動を通して豊かな心を育て、良い行いを実践する姿を、若中プライド賞等で認め励ましていく。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の否定割合は、26.5%(全国比+5.4ポイント)と高い。各教科や総合的な学習の時間を通して、知的好奇心を育むような投げかけや、探究心を養うような声かけ、また粘り強く課題解決に取り組む姿勢を身に付けさせていく。

●○「学校の授業以外の1日当たりの勉強時間」の質問では、「平日」「休日」ともに、やや少ないという結果であった。しかし「全くしない」という回答もやや低い。ため、チャレンジノート等の家庭学習を定着させる取組の効果が現れてきているとも考えられる。今後は自ら進んで学習に取り組む、課題解決に向けて主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせていく。

●「1,2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度活用しましたか」の質問では「ほぼ毎日」「週3回以上」という回答が合わせて45.3%であり、全国平均64.4%を大きく下回った。その活用内容についても、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」や「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」などの肯定回答が、全国平均に比べやや低い。授業においてICT機器を効果的に活用できるよう、校内研修等を重ね、充実を図っていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定着	「チャレンジノート」の提出	学力向上と家庭学習の習慣化を目的として「チャレンジノート」を提出することになっており、本調査の結果においてもその効果が表れている。しかし、内容が宿題やドリル学習にとどまっているものも多い。今後は、内容を工夫することで、学ぶ意義や楽しさを実感できるようなものを取り入れていく必要があると考える。目前に控えた進路決定につながる上でも、家庭学習の質的向上を図っていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎・基本のより一層の定着	・基礎・基本に関する教師間の共通理解 ・学習に取り組む上での基礎・基本の定着	・基礎・基本の内容について、各教科ごとに共通理解を図り、小テストを学年内で統一して行う等の工夫をする。 ・授業を受ける上での基本を身に付けさせる。「正しい姿勢で教師や級友の話をしっかり聞く」「プリントはファイルに順番にはさんで整理する」等、生徒の学習に取り組む姿勢に関する指導を各教科で丹念に行う。
・家庭学習のさらなる活性化と内容の質的向上	・家庭学習の質的向上 ・自ら学ぼうとする意欲の向上	・家庭学習を量・質の両面で充実させるためには、卒業後の進路などとも関連させながら学ぶ意義について自覚させたり、学ぶ楽しさを実感させたりすることが不可欠である。動機を「宿題を終わらせるため」「ドリル学習のため」にとどめないために、スポーツや娯楽・ニュースで話題になっていることなど、自らの興味・関心に基づいて追究するような内容を付け加えていく。 ・学級活動や道徳の授業において、学び続ける大人を取り上げたりすることで、学ぶことの楽しさや崇高さを自覚させていく。